

平成24年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告

「やってみよう！環境学習プログラム」第3回「3Rをマスターしよう」（テーマ：3R）

□実施日時 平成24年8月9日（木） 9時45分～16時15分

□受講者数 13名

□実施場所 (午前)文化学園大学A65教室

(午後)東京都庁第二本庁舎 31階特別会議室25

□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局（研究所）から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局環境政策課（企画調整係 鈴木主任）より開講挨拶等
- ・研修受講者から一人ずつ簡単な自己紹介

2. ゲストティーチャーからの講義及び実習

（担当：文化学園大学 服装学部 USR推進室 片柳茉奈美（副手） 根津裕美子（副手））

文化学園大学が社会活動の一環として行う「ファッションエコモデルプロジェクト」の取組について紹介があり、その後、実際に反毛や余り布を再利用した針山づくりの実習等を行った。

- ・文化学園大学「ファッションエコモデルプロジェクト」の紹介
- ・学内の古着回収ボックス及び反毛機の見学、反毛機体験
- ・反毛と古布を利用した針山づくり実習
- ・文化学園服飾博物館の見学

【午後】

3. 環境学習プログラム「3Rをマスターしよう」の紹介及び実習

（担当：特定非営利活動法人 環境学習研究会 谷村春樹理事長）

(1) 「環境学習の意義」について

「昔の人は、親世代から代々にわたる生活の知恵や言い伝え、例えば八百万の神など目に見えないものでも信じ大切にすることが、日々の生活の中で当然のこととしてあった。しかし、現在の生活では、こうした目に見えないことへの畏敬の念や大切にしている気持ちなども薄れ、そうしたことを知る機会や感ずること自体が減り、子どもたちが日常生活の中で感性を育む大切な機会が失われてきてしまっている。

こうしたこともあって、環境学習では、実際に体験する学習を行うこと、できれば自分の住む地域で行うこと、ふるさと意識を大切にすることなどが大切であり、それによって、子ども達の「ものを見て考える力」が養われ、感性が磨かれてくる。」

など、環境学習を行うことの意義について説明があった。

(2) 「3Rをマスターしよう」模擬授業

前半は、導入として、身近な衣類を題材に衣類（繊維）の素材当てクイズ（絹、麻、綿、毛、ポリエステル）を行い、繊維の原材料や自然由来か否か、容易に分解されるかどうかなど、3R面に着目して考えた。次に、子ども達に物を大切に使う心や消費生活を考えさせるきっかけとすることを狙いとして、江戸時代は衣食住のすべての面において、モノを無駄なく使い切ることが工夫された循環型社会であったこと、それが様々な職業として成り立っていたこと等を紹介し、その後自分たちの生活の中での3Rを楽しみながら考えさせる一手法として「リサイクルすごろく」づくりを行った。

後半は、飲料容器を題材として、スチール缶、アルミ缶、ワンウェイびん、リターナルびん、ペットボトルのリサイクル工程のクイズを行い、リサイクルに係る手間とエネルギー消費量の関係について子供たちに考えさせる手法を紹介した。また、ペットボトルのリサイクルについて、原材料からリサイクル製品まで実物を見せながら説明を行い、併せて、ペットボトルから繊維を作る実験キットの説明も行った。

(3) まとめ（質疑応答及び参加者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、参加者が一人ずつ発表し、講師がコメントをして、参加者で情報を共有した。

4. 事務連絡、アクション7事業の紹介、アンケート記入等（事務局）

（提出後解散）

【研修の様子】（午前）



ファッションエコモデルプロジェクトの紹介 1



ファッションエコモデルプロジェクトの紹介 2



反毛機の実演



出来上がった反毛



反毛を使った針山づくり説明



針山づくり実習

【研修の様子】（午後）



「3Rをマスターしよう」模擬授業の様子①



「3Rをマスターしよう」模擬授業の様子②



繊維の素材当てクイズ用の実物（各種の糸、繭、綿花等）



飲料容器のリサイクルクイズ



ペットボトルのリサイクルの説明



まとめ、発表等